



NF伝～焼かない肉はただの生～

早いもので、今年ももう11月ですね。外を見ると眩いばかりの紅葉とイチョウの落ち葉。京大にアツイ季節が帰ってきましたよ。そう、ドンちゃん騒ぎの熱い野郎、皆が4日間のシンデレラ、ご存知NFです。応用生物専攻の畜産チーム、我々がはくび会はNF前夜祭に焼肉の模擬店を出店するのが恒例となっています。当日は、動物栄養研が中心となって出店の準備・仕込みに励みます。お客が集まる前に、まず美食倶楽部の一員である私が前売り券を使い焼肉を試食。昨年の炭の前で呼吸器を痛めつつ働いたあげく、最終的に2口しか食べてないという悲劇に、美味しいはずのお肉がやけにしょっぱくなって辛い記憶が蘇ります。(GB第7号参照)しかし、今回食べたお肉は本当に美味しい！看板に産地を特定してないから偽装もなし！そして、供え物のキムチがこれまた美味しい！キムチは動物栄養研の手作りだとか、手作り失敗したとか、通販で大量に仕入



れたとか、色々な説がありますが、美味しくて安全なら文句無し！一皿350円と模擬店の中でもかなり単価の高い我らの「焼肉」でしたが、炭火の香りをお客を大量に呼び寄せ、あっという間に行列ができました。焼き職人もそれに気を良くして肉をお皿に盛りまくり、気付いたときにはもう、お肉は無くなってしまいました。牛肉好きのインド人、サンディーさんは「まだ一皿しか食べてないよ！」と不満顔。2年連続で閉店予定時間を大幅に早めての店じまいとなりました。やはり、皆で力を合わせ仕事をするのは楽しいもんです。栄養の皆様、本当にお疲れ様です。来ていただいたお客様ありがとうございました。



NF伝2 豚汁は語る～僕らが3日で1000杯売った理由(わけ)～

時間がないので絶筆です。

(椎野特派員)



目次:

～広岡先生の随筆⑦～ 京の茶漬けと日本人間関係	2
新連載 東京滞在記～飼育実習編	3
山羊乳と山羊チーズの お味はいかが?	3
オランダ通信 ～アーネム編～	4
アフリカ人の山羊研修	4
畜魂祭	4
お知らせ	5

お誕生日会

9月、10月とお誕生日会が開催されないまま11月を迎えてしまいました。そこで、9～11月のお誕生日の方々6人を同時に祝おう♪と、計画したのですが、人数が多すぎたため日程の調整が付きかず…。結局、3人ずつの分割開催となりました。



11/13に行ったお誕生日会①では、長命さん(9/10)、廣岡先生(10/13)、椎野くん(11/1)の3名をケーキとおはぎ(え…)でお祝いしました。ケーキにはお誕生日の人たち

の名前入り(一部省略されていますが)。なんともかわいらしい限りです。



つづいて、29日にはお誕生日会②を行いました。②では、熊谷先生(11/15)、塚原さん(11/23)、菊原さん(11/29)の3名をお祝いました。凶らずも、この日は菊原さんの誕生日当日でした…。今回はチーズケーキ2個、シフォン1個を用意しました。とお～ってもおいしかったこのケーキたちは、なんと当研究室の4回生、K氏の彼女の手作りだったのです！とても手作りとは思えないすばらしいケーキにみんな感激でした！！

早いもので、今年ももう12月です。クリスマスツリーやきれいなイルミネーションが街を彩り、うきうきした気分になりますね。12月7日の北部構内クリーン大作戦では、山羊たちも枯葉のお掃除に一役買って、注目を集めていました。そのあとみんなで焼き芋を食べました！ご馳走さま(^)冬の気分も盛り上がり、気持ちも暖かくなりますね。





好評連載「広岡先生の随筆」

①京の茶漬けと日本人間関係



最近、「京の茶漬け」のエピソードは全国的に知られるようになった。まだ知らない人のために簡単に述べると、京都人の家に訪れた際に、話が終わりに近づき帰り際に、京都人から「お茶漬けでもおあがりやすか(食べますか)」と聞かれた時、「それでは、いただきます」などと答えたら大変なことになるという例えである。京都人の「お茶漬けでもおあがりやすか」は、お帰りになってほしいという合図である。すなわち、帰ってほしいという合図をまったく逆の言い方で京都人は表現



するのである。もしそれを誤解して、茶漬けを食べようとした時、京都人は、その人を他人の気持ちに察さない無粋な人と判断し、その後の付き合いは完全に他人行儀になるか、あるいは付き合いをやめてしまうことになる。この「茶漬け」は一つの例で、茶漬け以外のいろいろなものに代わり得るし、またその言葉が発せられるタイミングもさまざまである。この例えは、京都人の持つ一面を大げさに誇張して言ったものであるが、ここで言いたいことは、京都人は拒否したいことをまったく逆の言い方で表現し、それが常識になっているように見られている点である。このことは、京都人が象徴的に取り上げられているだけで、多かれ少なかれ日本人が一般的に持っている行動様式と言えなくもない。そして、ストレートに自己主張することが当然となっている外国人にとって、日本人を理解する上で最も分かりにくいと感じている点がこの点であろう。

「No」の意志を「Yes」の言葉で表現する。このことは、見方を変えれば日本人のやさしさ、おこがましき、思いやりの表れと言える。日本人が家庭や社会で育つ過程で自然と身につける(ある意味で)美徳である。しかしながら、数は少ないが、京都人の言葉を借りれば「無粋な人」はどこにでもいる。たとえば、いやな仕事を頼んできて、特に上司であれば「いや」とは断れないので、愛想笑いをしながらでも「はい、やります」と答えたら、そのまま喜んで引き受けたと誤解してまったく感謝せず自然のごとく仕事を頼む人、あるいは、一方的に自分で物事を決め、他人が嫌がっていることを解さないで、そのまま押しつけ、後でみんなに陰口を言われている人は、どこの職場でも必ず一人はいるのではないだろうか。

日本の社会の中では、他人がどう考えているかを常に慎重に観察し、その気持ちを察するように心掛ける必要がある。若いうちはそうでもないが、年を重ねるごとにそうすることが要求されるようになる。地位が高くなればなるほど、他の人は立場上拒否しにくくなるため、「No」と思いながら「Yes」と答えるようになる。そのニュアンスを理解せずにいると、他人や部下の信頼を失うことになり、「裸の王様」となる。したがって、日本において良好な上下関係、男女関係、上司部下などの人間関係を築くためには、相手が「Yes」と言っても「No」ではないかと慮り、おもんばか「No」であると気づけばそれとなく「No」の意を汲み取ってその方向で考えてやる必要がある。

このような「Yes」と「No」の本心を嗅ぎ分ける力は、今の若者はすぐれているように見える。よく若者が「空気を読めない人」と言う表現を使うが、まさに「無粋な人」はこのカテゴリーに入るのではないかと考えられる。

それでは、運悪く、そのような部下の気持ちを察せない無粋な上司を持った時にはどうすればよいのであろうか。私の場合、そのような上司に出会った時には、自分の意見・考えをしっかりと率直に伝えるようにしてきた。何度も何度も自分の意見を根気よく伝えることが唯一の問題解決の方法である。決して「あの人には言っても分からない」とあきらめるのではなく、辛抱強く説得することである。実際に、欧米社会に行った時、自己主張をする能力は重要となるので、そのトレーニングと思ってがんばってほしい。意思の疎通を図ることで、事態の改善が期待できる。

最初に、「京の茶漬け」について述べたが、あえて京都人の一人として言っておけば、このことが問題になるのは、人間関係がまだ構築されていないケースで、人間関係が深まれば茶漬けに誘われ、本当に御馳走になっても問題はそれほど起こらなくなる。人間関係が構築される以前の「いちげんさん」から、構築後の「おなじみ」に変わった時から本当の人間関係がスタートする。同じことが、上下関係、男女関係、上司部下の関係にも当てはまり、意志の疎通が十分できて、信頼関係が構築されれば、おのずと問題は解決するものである。

相手の気持ちを察し、相手の「Yes」、「No」の意志を嗅ぎ分ける能力は日本社会では必ず必要な能力である。また同時に、外国人と付きあう場合には自己主張をする能力が要求される。これら両方の能力を有することが、他人や部下に信頼され、真の国際人になれる資質と言えよう。

広岡博之



新連載！

東京滞在記－飼育実習編－

8月の院試発表が終わり、翌々日には多摩動物公園での飼育実習が始まりました。動物園では研究に入る学生は2週間の飼育実習を行うのですが、今回はそのオランウータンの飼育実習体験記をお送りいたします。飼育員の朝は8時半の餌の切り出しから始まります、個体によって重量や好き嫌い、好きな切り方があるのです。人間でも各々好き嫌いがあるように、野菜が嫌いな個体、卵が嫌いな個体といろいろいます。

なんとか餌を切り出した後は掃除です。みなさんのフンを拾って、洗浄機で居室を掃除した後に水を流し、水切りをします。55歳のモリーさんが夜のうちに描き上げた絵を回収し、散らばっているクレヨンを拾うのも大事な仕事です。ちなみに帰る前にはモリーさんの居室に画用紙を持っていき、「先生どうぞ」と入れておきます。なんだか出版社の社員のようにです。

そうこうする内に11時になり個体の移動を行います。やはり僕のような新入りがあるとオスは気になるようでなかなか出てくれません。僕へのちよっかいで手一杯のようなので、新入りはやむを得ず隠れなくてはなりません。

午後はまた個体の入れ替えを行って、餌やりと掃除、外に出ている個体を収容して夕方に終了です。ある日の帰り際、51歳のジプシーさんの前を通り、「お疲れ様」と声をかけるとジプシーさんはペットボトルで水を飲みながら

雑誌を読んでいるところでした。こっちに顔を向け「ああ、お疲れさん」というような顔をするもまた雑誌をめくるのでした。

飼育員の仕事は他にも放飼場の草刈りや池掃除をしたり、ガラスをなめるのが好きな子のキスマークを消したりとハードです。加えてデスクワークや観客・取材記者への対応もあるのでこれは忙しいと感じました。この実習を通して、現場で飼育員の方々がどのように動物と接しているのか、またオランウータンそれぞれがどのような個性を持っているのか、そうしたことを知ることができたのが大きな収穫でした。（TAZY）



山羊乳と山羊チーズのお味はいかが？

11月20～21日に、今年度4回目となる学生実験が行われました。内容は毎回同じですが、ルーメン液採取のてこずり具合や、放牧のときに見せる山羊たちのパフォーマンスが毎回楽しみです。さて、今年の学生実験では、学生さんに山羊のミルクと山羊乳で作ったチーズを試食・試飲してもらってアンケート調査を行いました。分析結果は、追々学会などで発表するとして…学生実験の中でも楽しい時間が過ごせる試飲・試食会のはずなのですが、毎回なかなかいい反応が得られない官能試験、山羊乳ってやっぱり受け入れられにくいんでしょうか？毎回余った分を研究室のメンバーにおすそ分けしているので、研究室ではずいぶん身近な存在となった山羊乳と山羊チーズですが、苦手な人はやっぱり苦手なようです。アンケート回収後に学生さん

の反応をうかがうために、少し雑談するんですが、毎回出る話は、「ワインがあればいいのに…」はい、私もそう思います。ワインがあれば評価もずいぶん違うんじゃないかと。ところが今回、アンケート終了後に山羊乳と山羊チーズをおかわりしてくれた学生さんがいました。初めてのことで、ちょっとびっくりしましたが山羊仲間を発見したような気分で、嬉しかったですね～(^^)。山羊乳や山羊チーズが日本でもヨーロッパのように普及することを夢見つつ…調査結果をまとめたいと思います。

(ようこ)

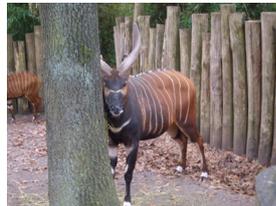




オランダ通信②～アーネム編～



オランダでの最初の休日にアーネムという町に行ってきました。アーネムは僕が留学しているワーゲニンゲンから比較的近くバスで30分ほどで行くことができます。アーネムには動物園があるのですが、想像していたよりはるかに大きな動物園で、全部回るのに3時間以上かかってしまいました(途中かなり迷いましたが・・・)。基本的には日本の動物園と同じような感じですが、日本で見られないような種類の動物も多々いたのでかなり楽しめました。ここでは、田嶋君に薦められたオランウータンもじっくり見てきましたよ。オランウータンは3種類いて、今まで見たことのない毛の色が黒いオランウータンがいました。アーネムの中心部には大きな教会があり、2ユーロ払えば頂上部に入ることができます。オランダはほとんどが平地なので、展望は最高です。また、教会の周りでは数多くの露店で賑わっており、これぞヨーロッパと感じられる場所です。ただ、町の中心部は日本のそれと同じような感じなので、あまり目を引くようなものはないです。食べ物は日本と違ってサンドイッチ中心なので(ランチの話です)、数え切れないほどのサンドイッチの種類には圧倒されます。味もかなりおいしいです。(記者N)



知る人ぞ知る名古屋のナナちゃん人形もクリスマスのパーティードレスを着ています。ナナちゃんの股の下をくぐるのは、名古屋人としては正當な行いです。

畜魂祭

11月9日に、動物実験棟(畜舎)で畜魂祭が行われました。畜魂碑の前でお香をたいて、実験に利用された動物たちの霊を慰めました。りんごや花束などがお供えされ、実験動物を扱う研究室の先生方や学生がそれぞれ手を合わせていました。毎年恒例の畜魂祭ですが、なぜか去年は行われなかったということです。今年は熊谷先生の呼びかけで復活しました。科学の発展に寄与した偉大な実験動物たちに感謝の気持ちをささげつつ・・・合掌



日本でも矢木緒卓さんと私しか持っていない(?) 山羊カレンダー

アフリカ人の山羊研修

11月12日から家畜改良センター長野牧場へアフリカ地域別研修『小型草食家畜生産を通じた農村開発』コースのお手伝いに行ってきました。この研修は、ODA(政府開発援助)の一貫でJICA(国際協力機構)が実施する『研修生受け入れ制度』のひとつのプログラムです。要は、アフリカ地域の畜産研究者や専門官を招いて小型草食家畜(主に山羊)についての研修を行うというものです。内容は、日本の畜産発展の歴史から山羊の飼育管理や育種、人工授精、また生産物(乳・肉)の加工まで多岐にわたります。研修生は、エチオピア、ガーナ、ケニア、ザンビア、ジンバブエ、スーダン、タンザニアの7カ国からの8名です。10月中旬に日本に到着した彼らは、筑波の研修センターで日本語と普及技術などの講義を受けたあと、福島の家畜改良センター本所へ移動し、畜産物の流通やめん羊の飼育に関する講義を受け、長野牧場<<http://www.nlbc.go.jp/nagano/>>へやってきました。ここでは、実際にヤギを扱う実習ができるとあって、皆さん意欲的に実習に取り組んでいました。地域のテレビ局やラジオ、新聞社の取材もたくさん受けました。アフリカからの研修生とは言っても、その国のトップクラスの人材が集まったわけですから、知識レベルも非常に高く、内容の濃い実習でした。休日には、近くで行われた国際交流フェスティバルにも顔を出し、浴衣を着たりして楽しんでいました。この研修は、このあと舞台を沖縄～福島～筑波へ移し、12月21日まで続きます。研修で得た技術や知識を自国へ持ち帰り、生産性向上と貧困解消につなげてもらいたいものです。(ようこ)



Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、12月6日の椎野君と田島君の文献紹介で終了です。来年は冬期休暇明けの1月17日から始まります。
ゼミ係

お誕生日会

12月のお誕生日さんは、事務の上原さん（11日）です。お誕生日会のスケジュールは追ってご連絡します。



イベント係

忘年会

イベント係では、忘年会を企画中です。また美味しいお肉が食べれそうですよ！日程は14日（金）を予定しています。詳細は追ってご連絡しますが、リクエストも受付中です。
イベント係

研究室メンバーの動向

多摩動物公園へオランウータンの調査に出掛けていた田島君が研究室へ復帰しました。3ページに飼育実習の様子を投稿してくれているので、お楽しみ下さい。オランダ留学中の西尾君（M2）は、年末に帰国の予定です。ネパール調査へ熊谷先生が12月7日から24日まで、と椎野君（M1）が12月10日から27日まで（クリスマス返上で）出掛けています。

2007年 12月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
11/25	26	27	28	29 熊谷先生・金島・竹内 体重測定・(予防注射)	30	1
2	3	4	5	6 大石先生 レニン・田島 体重測定	7	8
9	10	11	12	13 長命・田端・菊原 体重測定	14	15
16	17	18	19	20 竹内・児嶋・田島 体重測定	21	22
23	24	25	26	27 田端・金島・椎野・竹内 体重測定	28	29 松平さん
30 松平さん	31 松平さんお休み	1/1	2	3	4 児嶋・金島	5